プラン・ユースグループ実施調査報告書

ユースがパートナー間で
対等な関係を築くためには

2022 年 3 月

PLAN YOUTH GROUP
for Plan International



02　プラン・インターナショナルについて
プラン・ユースグループについて

03　調査背景

06　調査目的

07　調査方法

08　調査結果

1. 5 人の語り　概観

12　2. 考察 :

性行為も含めた人間関係づくりに関する視座がどのように構築されているか

27　3. 提言 :

健全な人間関係を築くためには学校教育に求められているもの

33　付録資料　5 人の語り　詳細

国際 NGO プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために世界 70 カ国以上で活動する国際 NGO です。創立は 1937 年。長年にわたり、子どもや若者、地域の人々とともに地域開発を進めてきました。すべての子どもたちの権利が守られるよう、とりわけ女の子や女性への支援に力を入れています。市民社会、政府機関や国際機関と連携しながら、世界を持続的に、前向きに変えていきます。

プラン・ユースグループについて

PLAN YOUTH GROUP
for Plan International

プラン・ユースグループは、子どもの貧困、女の子・女性への差別がない公正な社会を実現するために活動する国際 NGO プラン・インターナショナルのユースグループです。事務局内へユース視点からの助言を行うアドバイザリーと、ジェンダー課題に対する啓発活動・政策提言活動を行うアド ボカシーの 2 つのグループで構成されています。



※:「ユース世代」: 15 ～ 24 歳を指す。

調査背景

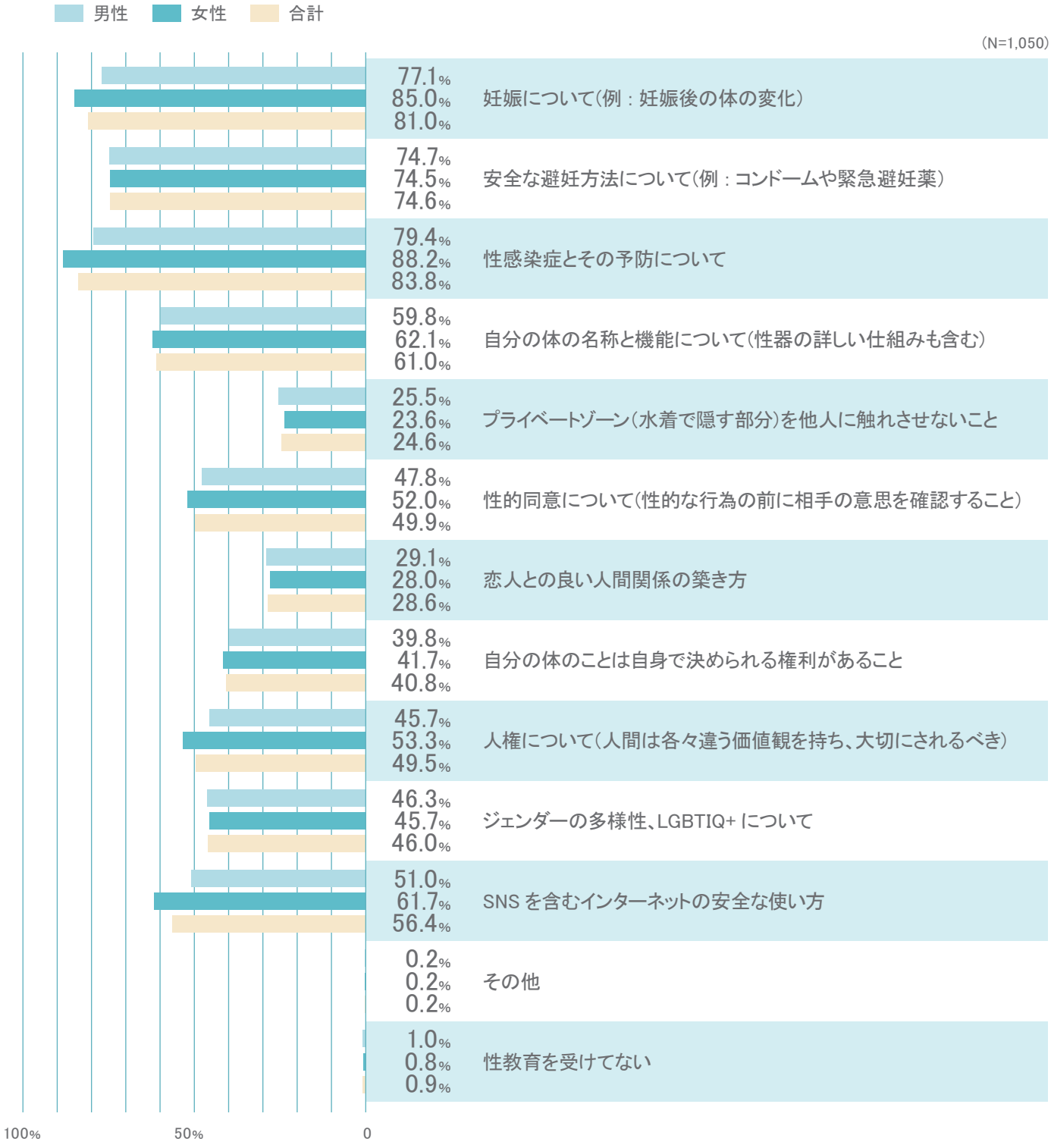
2021 年に岡山大学大学院保健学研究科が行った、 全国の厚生労働省指定の「妊婦の新型コロナ相談窓口」の相談員を対象とした調査※1 によれば、相談業務の割合のうち、メンタルヘルスに次いで、「望まない妊娠」「若年妊娠」「妊娠中絶」の相談件数が増加していた。若者の性の課題に取り組む、特定非営利活動法人ピルコンに寄せられる相談も、特に 10 代の妊娠は 2020 年の 3 月ごろから増加傾向にあった※2。また、内閣府男女共同参画局によると、2020 年の DV の相談件数は 2019 年度の 1.6 倍にのぼり、さらに性犯罪・性暴力の相談件数も、2020 年度下半期は前年度同時期の約 1.3 倍となった※3。無理やり性行為を強いられた女性に関しては、加害者との関係を交際相手・元交際相手とあげた人が約 30%、また次いで配偶者約 17%となっていることが明らかとなった。

こうしたことから、コロナ禍においてはパートナーとの間で、望まない妊娠、DV、性暴力などに増加が見られ、平時のジェンダー不平等による課題が緊急下において顕在化していると言えるのではないだろうか。私たちはこうした課題解決に貢献したいと考える。

2021 年にプラン・ユースグループが実施した包括的性教育に関するアンケート調査結果※4 (図 1,2) から、 ユースは恋人との良い関係の築き方について、学校で学ぶ機会が限られているものの、学びたいと考えていること、避妊に関する知識をもっと具体的に身につけたいと考えていることが分かった。このことから、上記の問題の背景には、望まない妊娠や中絶、DV を防ぐための知識や交渉術など実践的な教育の不足に加え、ユースも性行為において対等な人間関係を築けていない現状※5 が推察される。

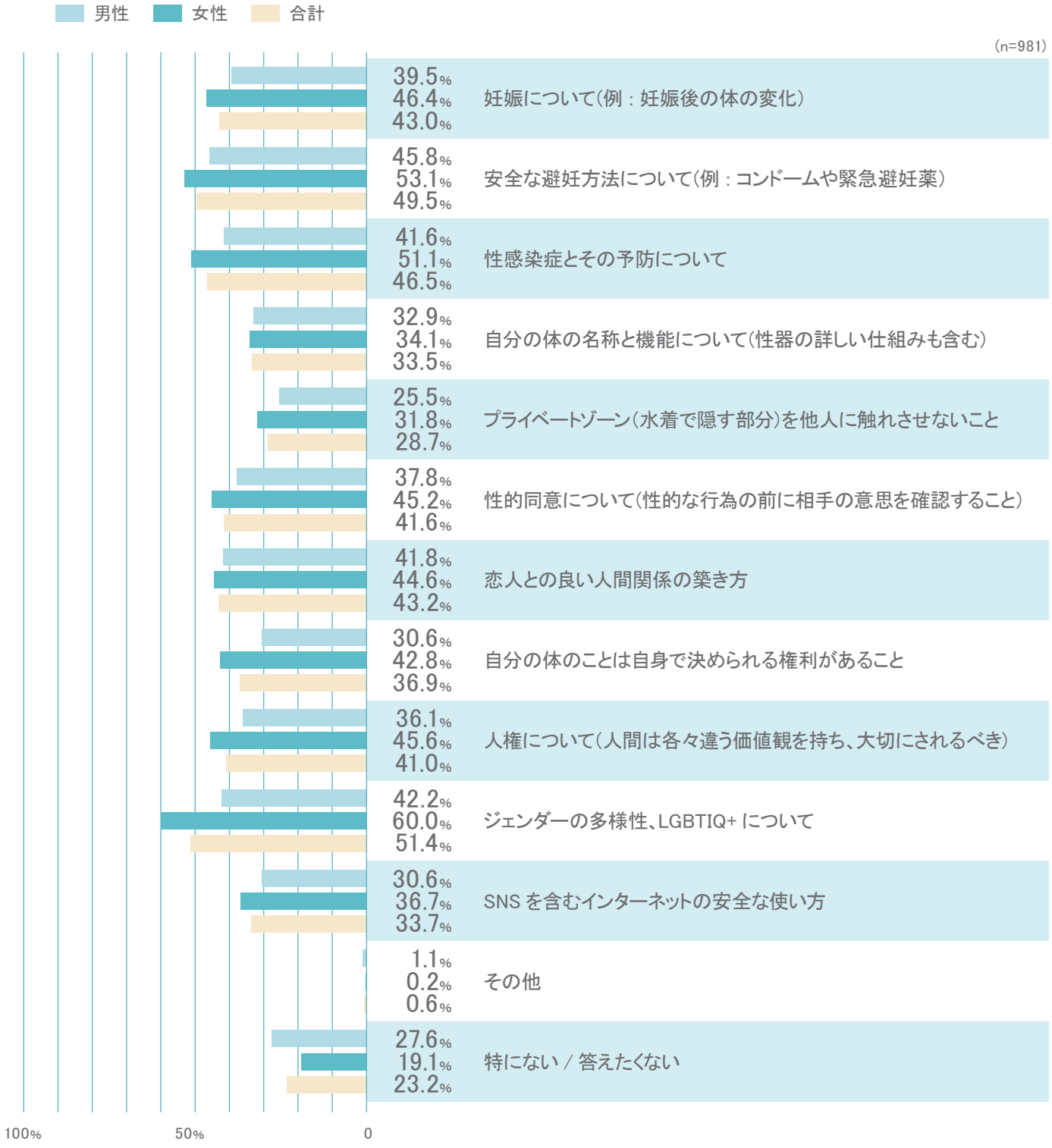
※1：岡山大学大学院保健学研究科 (2021)「全国の都道府県等における妊婦の方々への新型コロナウィルスに関する相談窓口への調査報告書『新型コロナウィルス感染拡大に伴う妊産婦や母親の不安と支援の実態』」https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/img/COVID19_soudanmadoguchi_houkokusyo_0324.pdf
※2：特定非営利活動法人ピルコン (2020)「『妊娠したかも』と思った時に無料で相談できる LINE ボット『ピルコンにんしんカモ相談』利用者数 1 万人突破！ ～コロナ禍で急増する若者の妊娠相談から見える緊急避妊薬・性教育の課題～ 」https://pilcon.org/wp-content/uploads/2020/05/c4acb4a16b86ca8c7f509dc0b79e8814.pdf
※3：男女共同参画局 (2021)「女性に対する暴力の現状と課題」https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/pdf/kadai.pdf
※4：プラン・インターナショナル・ユースグループ (2021) ユースから見た日本の性教育の実態調査報告書 https://www.plan-international.jp/youth/pdf/0630_Youth_Report_01.pdf
※5：ここにおける対等な人間関係とは、 互いの SRHR(性と生殖に関する健康と権利) を尊重することができる関係のことをさす。

図 1：これまで学校でどんな性教育を受けてきたか（複数回答可）※4



※：包括的性教育のキーコンセプトでは、ジェンダー、セクシュアリティ、性表現などより広範な性について扱っているが、本設問での選択肢では「ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について」とまとめて設定した。

図 2: どんなことを学校で学びたいか(複数回答可)※4



※: 包括的性教育のキーコンセプトでは、ジェンダー、セクシュアリティ、性表現などより広範な性について扱っているが、本設問での選択肢では「ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について」とまとめて設定した。

調査目的

この調査では、男女間における対等な人間関係づくりの実態を、特に性行為に関する視点から明らかにしたい。調査では、ユースを対象にインタビューを実施し、「自身の考えるパートナーとの平等な関係性とは何か」「実際に平等な関係を築けているか」といった人間関係に関すること、またジェンダー観について聞くこととした。これにより「性行為も含めた人間関係づくりに関する価値観がどのように構築されているのか」「健全な人間関係を築くためには学校教育に何が求められているのか」考察し、これらの課題解決のためにユースが必要と考えることを提言したい。

多くの人が公の場で活発に
話しにくいと感じる性についての課題。
だからこそ、ユースグループは同世代の抱える
リアルな気持ちに迫りたかった



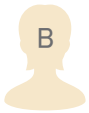
調査方法

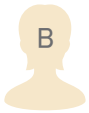
避妊、性的同意の課題の多くが男女間で起きていることに鑑み、異性愛者を調査の対象とした。性行為における避妊の実態、性的同意の取り方、またこれまで受けてきた性教育といった内容についてインタビュー用の設問を作成。リサーチ会社であるパイルアップ株式会社を通して、インタビュー調査に同意した者から選んだ 21 ～ 24 歳の男女 5 人に対して、2021 年 9 月 25 日と同月 27 日の 2 日間にわたり、オンライン会議システムを通してそれぞれ 1 時間程度のインタビューを実施した。以下に回答者の属性を示す。

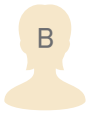
	年齢・性別	居住地	職業・職種
A	24 歳・女性	佐賀県	社会人・教員
B	23 歳・女性	東京都	大学生
C	21 歳・女性	東京都	大学生
D	24 歳・男性	東京都	社会人・デザイナー
E	22 歳・男性	東京都	大学生

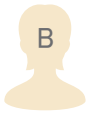
調査結果

1. 5 人の語り　概観

	パートナーとの関係性	
 A	理想	精神面：自立 経済面：相手に奢ってほしい 性的な面：互いに性行為をしたい時にできる
	現実	精神面：相手からの依存 経済面：理想と同じ 性的な面：少し束縛あり
 B	理想	精神面：束縛がなく、相談しあえる 経済面：相手の経済力が高ければ多く出してほしい 性的な面：二人だけの時に性行為をしたい
	現実	精神面：理想と同じ 経済面：理想と同じ 性的な面：コロナ化で性行為の頻度が下がり不安
 C	理想	精神面：落ち着いていて、お互いが対等でいられる、お互いが思いやれる、関係性によっては束縛もあり 経済面：稼ぎがあれば多く出してほしい 性的な面：性行為は週 1 回〜2 回
	現実	精神面：思いやりがないことがある 経済面：言及なし 性的な面：言及なし
 D	理想	精神面：束縛がなく、波長が合う 経済面：今は割り勘、将来は奢りたい 性的な面：互いに同程度の性行為頻度を望む
	現実	精神面：束縛あり 経済面：割り勘 性的な面：理想の性行為頻度に差があり不満
 E	理想	精神面：束縛がなく、日常生活が充実 経済面：大体割り勘、奢るなら一割 性的な面：スキンシップは大事
	現実	精神面：あまり会えないと不満 経済面：理想と同じ 性的な面：性行為の頻度は理想通り

		ジェンダー観
 A	世間一般の価値観	モテる男性：容姿が良い、経済力がある、精神的自立 モテる女性：容姿が良い、女性らしい仕草、男性を立てる
	自分の価値観	付き合いたい男性：精神的、経済的自立 理想の女性：女性らしい仕草や包容力、男性を立てる
 B	世間一般の価値観	モテる男性：容姿が良い、清潔感、尊敬でき頼りがいがある モテる女性：気配り、優しさ、よく笑う、柔らかな雰囲気
	自分の価値観	付き合いたい男性：清潔感、頼りがい、ポジティブな発言 理想の女性：男性の目線を気にせず、自立し自分らしさや芯を持つ
 C	世間一般の価値観	モテる男性：優しさ、経済力が高い モテる女性：容姿が良い、気配り、優しさ
	自分の価値観	付き合いたい男性：気遣い、自分を一番優先してくれる 理想の女性：経済的自立、家事と仕事を両立
 D	世間一般の価値観	モテる男性：内面重視、気配り モテる女性：容姿重視、気配り
	自分の価値観	付き合いたい女性：不満を感じても空気を読み笑顔で対応 理想の男性：容貌が良い、気遣いや判断力
 E	世間一般の価値観	モテる男性：社会的地位や経済力がある モテる女性：容姿が良い、優しさ
	自分の価値観	付き合いたい女性：世間一般の価値観と同じ、特に容姿重視 理想の男性：言及なし

	性行為への印象	性的同意・避妊法	
 A	友達やパートナーとは 気軽に話すが、 親とは話さない ポジティブな印象	理想	性的同意や避妊について コミュニケーションを取る必要がある
		現実	理想通りのコミュニケーションを取れている
 B	仲の良い友人とは 気軽に話す 愛情を感じるため、 ポジティブな印象	理想	避妊についてコミュニケーションを取る必要がある 性的同意は雰囲気でよい
		現実	コミュニケーションは特に取っていない
 C	育った環境の影響で ネガティブな 印象を持ったが、 今はポジティブな印象	理想	性的同意や避妊について コミュニケーションを取る必要がある
		現実	性行為の直前に話すことは難しい
 D	友人やパートナーとは 気軽に話す 人生の娯楽と とらえているため、 ポジティブな印象	理想	性的同意や避妊について コミュニケーションを取る必要がある
		現実	避妊は必ず行い、同意は行動で判断 気心が知れた後は同意は特に取らない
 E	パートナーとは 気軽に話すが、 友人や親とは話さない 以前はパートナーの 影響でネガティブ、 今はポジティブな印象	理想	性的同意や避妊について コミュニケーションを取る必要がある
		現実	理想通りのコミュニケーションを取れている

	性行為に関する周囲からの影響	性行為に関する周囲への影響	性教育	
 A	周囲の影響による 焦りや不安は 感じていない	友人へ関係性に 関してアドバイス、 有効だったと感じる	・性行為 避妊等	習った記憶があり、 実践できている
			対等な 人間関係	ほぼ記憶なし
 B	友人への相談で パートナーとの 関係性は改善 周囲の影響で、 性行為の頻度に関して 不安を感じた	友人へ避妊に 関してアドバイス、 あまり改善は しなかった	・性行為 避妊等	ほぼ記憶なし
			対等な 人間関係	ほぼ記憶なし
 C	周囲の影響による 焦りや不安は 感じていない	友人へ関係性に 関してアドバイス	・性行為 避妊等	教科書に沿って暗記
			対等な 人間関係	受験に繋がらないため、 内容は薄い
 D	友人への相談で 不安が払拭された経験 周囲の影響による 焦りや不安は 感じていない	自身の経験に 基づいた アドバイスをした	・性行為 避妊等	教科書を暗記 記憶はあるが、 実際の場面との乖離あり
			対等な 人間関係	ほぼ記憶なし
 E	パートナーとの 関係性に関して、 友人には相談しない 友人からの、 女性との関わり方の アドバイスは 参考になった	彼女とのことを 友人に話すのが 申し訳なく、 相談を受けた ことがない	・性行為 避妊等	教科書に沿って学習
			対等な 人間関係	主に社会科で学習

2. 考察：

性行為も含めた人間関係づくりに関する視座がどのように構築されているか

〈平等な関係が築けない原因〉

育った環境の与える影響

●地域にあるとされるジェンダー規範の影響

女性Cは、インタビューで自身の理想の同性、パートナー像について聞いた際に、「自らの出身地の独自の価値観に影響を受けている」と語っている。例えば、女性Cは出身地（九州地方）に根付くジェンダー観とは真逆と想定される、自立したキャリアウーマンを女性としての理想像としており、地域にあるとされるジェンダー観の影響を受けつつそれに反発する形で価値観を形成していることが見てとれた（39頁参照）。一方で、女性A（Cと同地方出身）は、社会一般、及び自身が理想とする女性像として、その他のインタビュー対象女性と異なり、「男性を立てる女性」を挙げている。女性Aの理想像は、友人の話を参考にしていることから、女性Aの周囲ではAと同様の価値観が共有されていると推察される。社会一般の理想像と自身の求める理想像とに相違が無いのは、当該地域にあるとされる固定的なジェンダー規範を無意識に受け入れているからだと考えられる。以上から、**女性Aや女性Cの出身地方に限らず、地域に根ざした価値観が成長過程において無意識的に個人に内在化し、それが平等な関係性構築に影響を与える可能性も考えられる。**

●家庭環境の影響



パートナーとの避妊や性的同意についてのコミュニケーションは、
もちろん取るべきだと思う。
母がシングルマザーで、その苦労や大変さを見ていたので、
「自分の子どもにはそのような苦労を味わってほしくない」という実体験に基づき、
容易に子どもを作り、その子どもが良い人生を送れなくなるのは、
両親の自分勝手な行動だと思う。

男性Dの発言から、性的同意への意識が家庭環境から影響を受けている場合もあると分かる。男性Dは母子家庭という成長環境を通じて、子どもを作った場合の子どもの苦労や大変さを自分事として捉える機会があった。このことから性的同意に関してしっかりとコミュニケーションを取り、互いの意思を尊重しようとする姿勢を強く持つようになったことが読み取れる。

●男女別学の影響

E

男子校出身で、彼女がいるということは憧れで、彼女がいるということが（学校内で）他人にマウントをとれることだった。
（中略）「彼女」という存在を手に入れたいという感情は、
男子校というコミュニティにいたら大きくなるのは確か。

男女別学という環境がパートナーについての意識やパートナーとのコミュニケーションに対して与える影響は、男性Eの回答から読み取れる。男性Eは、「男子校にいるとパートナーを持ちたいという感情が強くなる傾向がある」と述べている。ここから、特に思春期において日常的に女性と接する機会が制限されていると、パートナーを持つ人が羨ましいという心理が働き、女性をある意味モノとして扱う「マウント材料」となりえてしまうことが分かる。このような、**パートナーである女性の容姿（スペック）と、自身への外部からの評価を繋げて考える傾向は、自身とパートナーの間で対等な関係を築くことを蔑ろにしてしまう結果を招いてしまう可能性があるのではないか。**

E

男子校に通っていたために異性との関係構築に対して、思春期を女の子と
話すことなく過ごしてきた。そのため日常で女の子と話すことは難しく、
今でもコミュニケーションを取るのが難しいと感じるといった影響がある。
一時期、女の人がすごく怖かった。
男の人は包み隠さずダイレクトに伝えてくれるけど、
女の人は言っていることと本心が違うことが多いと思うから。蕎麦屋にいった時、
「蕎麦食べるの早いね」という言葉が女の人から出たら「もっと遅く食べろよ」と
言いたいのかと勘ぐりすぎるところがある。

異性と接する機会の少なさは、コミュニケーションへの意識に影響する可能性がある。男性Eは、「思春期における女性とのコミュニケーション機会の少なさが、女性と話す際の難しさや恐怖感につながっている」と語る。ここから、**男女別学のもたらす異性との接触機会の乏しさが、コミュニケーションに基づく関係性構築の障壁となり得る**ことが読み取れる。

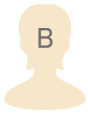
その他の周辺環境が与える影響

●友人からの影響

茨城県教育委員会の「性に関する調査(高校2年生)」[※6] によると、茨城県立高校に通う2年生 3,384 人のうち、性に関する不安や悩みがある場合に「友人」に相談する人の割合は 57.1%と、半数を超えていた。本調査の回答者は全員、「友人からは、パートナーとの関係性構築に関する焦りや不安などのネガティブな影響は受けたことがない」と答えており、女性 A、女性 B、男性 D は、性行為や性的同意や避妊について「友人と気楽によく話している」と答えている。これらの語りから、**友人が悩んだ際の相談先や話の共有相手として機能している**ことが読み取れる。



友人やパートナーとは性行為について気軽に話せる関係。
友達とは性行為がどうだったかや、男性の体について話したりする。
パートナーとも日頃から話している。
だけど、親とは異性の話をすることはなく、話しにくいと感じる。



友人との話の関しては、どれくらい束縛をするかや
性行為の頻度なども色々普通に話す。

例えば男性Dは、パートナーが妊娠した可能性があると分かり悩んだ際、相談したのは友人だった。ここから、性に関して悩んだ際の相談先として「友人」も想定して対策をする必要があると考えられる。そしてこの時、**相談先となる友人が正しい知識を身につけ、適切な対処を促せることが求められている。**



避妊をせずに性行為をしてしまった。
するとパートナーの生理が2,3ヶ月来なくなり、(中略)とても憂鬱になった。
女性の友人に話したら、
「生理不順は高校生の時は良く起きるものだよ」という話をされ、
「(妊娠とは)違う可能性もあるのか」と不安が取り除かれた。

「避妊をしない友人の話を他人事として聞いていた」という男性Dは、友人同士で同調圧力を感じることなく、ある程度の線引きを持って互いの話を共有している。そのため、友人間において誤った知識等が共有されても、互いがそのストッパーとして効果的に機能しない可能性があることも考慮する必要がある。

※6：茨城県教育委員会（2016）「性に関する調査（高校2年生）」
https://www.google.com/url?q=https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/welcome/soshiki/soshiki/hotai/hoken/pdf/27seichyousa.pdf&sa=D&source=docs&ust=1639390746149000&usg=AOvVaw3Gx21AmT2nN8K4eblzx7AS

D

友人とは、基本的には会った際に体験談として皆が性行為について
交互に話している中で、それについて話す壁は無くなる。
具体的には飲み会や久しぶりに会いご飯を食べる際に、
世間話のようにひとつの話題として話す。
避妊については、友人と話す中で、避妊をしていない話も中には聞くわけで、
その時に「なんでしないの」、「やばいじゃん」のような感じで、
他人事のような感じで話す。

ニューライフ・アドベンチャーが中高生 1,000 人を対象にした調査[※7] によると、性に関する情報に限らず悩みがある時に相談する相手として、回答者の 60%が「友人」を挙げている。実際、女性Bや男性Dは、「ジェンダー観やパートナーとの理想的な関係は主に自分の経験と友人からのアドバイスに基づいている」と述べている。ここから、友人との会話で話される内容が、価値観形成や異性との関係性構築に影響を与えていることが見てとれる。**友人の価値観に基づくアドバイスでなく、根拠のある情報によるものであれば、異性との関係づくりにポジティブに働く一方で、バイアスのかかった考え方や根拠のない情報によるものであると、ネガティブに働くことが考えられる。**

B

パートナーとの理想の関係について（中略）の理想像は、
今までの自分の経験や友達の話、恋愛についての記事が多く載っている
メディアから影響を受けた。

●メディアの影響

前述の茨城県教育委員会の調査[※8] によれば、性に関する知識や情報の入手先として、「インターネット」が 1 位（56.9%）であった。実際に、「友人と気楽に性に関して話せない」と答えた男性Eは、「不安なことや知らないことがあれば信頼できると思われるネットの情報サイトから情報を得ている」と述べている。

E

（性行為等について）学校の先生には話せていた。
親には話せない。
もし、不安なことや知らないことがあった時は、
政府や病院の信頼できるサイトを検索して情報を得ている。

※7：ニューライフアドベンチャー（2018）「中高生 1000 人の気持ちアンケート 教えて！みんなの声」 http://nla.or.jp/pdf/1000an_kekka.pdf
※8：茨城県教育委員会（2016）、前掲

〈平等な関係が築けている／築けていない実態〉

ジェンダー観との関連性が読み取れること

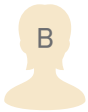
●経済的に平等な関係性を阻害するジェンダー観



（パートナーとの理想の関係性について）経済的な面では、
僕もまだ若いので理想は割り勘。
女性はメイクなどにお金をかける（ので割り勘は負担に感じるかもしれないが）が、
それは男性側が成長してからきちんと養えばよく、
彼氏彼女の関係の時は割り勘でいい。ただこれは「男性は女性を養うべきだ」と
いうよりは、「パートナーに苦労をさせたくない」という気持ち。



食事に行った時の支払いは奢ってもらうか、（相手に）多く出してほしい。



経済的余裕に違いがありすぎない場合は割り勘でいい。
ただ男性の方がすごく稼いでいる状況で、デートをすると、行く場所が値段が
高い所になると思うが、その場合は向こうが多めに払ってくれたら嬉しい。



女性が男性にお金とかの面を求めるのは、一般的に女性の方が育休とか、
子どもを産むときに休まないといけない期間が絶対に入ってくるから、
その期間稼いでもらいたい。

男性Dは、成長したら「女性のパートナーを養いたい」と考え、女性Aは、食事の際に男性から奢ってもらうことを望んでいる。女性Bは「男性が多く稼いでいる場合は女性より多く支払いをしてほしい、またパートナーにかける金額が愛情に比例する」と考えている。これらのコメントからは**「男性は女性に奢るべき」「男性は金を多く稼いでいる／稼ぐべきだ」という固定化された性役割意識や、特に女性については「経済的に自立していて裕福な男性が好ましい」という考えが読み取れる。**また女性Cは、「女性が育児休暇を取る際に、男性に稼いで欲しい」と考えていた。こうした考えは、男女で経済的に対等な関係性を築きにくい要因のひとつとなり得ると言えるだろう。

精神的に平等な関係性を阻害するジェンダー観

●「女性は容姿が重要」とするまなざし



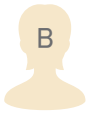
今のパートナーはある程度かわいくて、かわいい彼女がいるということは、
周囲から見た時に「あいついいな」と思われたり、マウントを取れたりするため。



（モテる女性像について）女性の場合だと容姿が結構関わってくると思う。
性格はお互いに大事だけど、「お金」と「顔」って出てきちゃうのは、
男性が女性に求めるのは自分と一緒にいて恥ずかしくないかとか、
そういう面もあるから。

5 人全員が、女性の理想像として容姿を挙げている。その理由として、男性Eは、「（彼女の容姿がよければ）マウントを取ることができる」からと述べ、女性Cは「男性は女性と一緒にいて恥ずかしくないかどうかを考えると思う」からと発言している。ここから、**男性は時に女性を「自分をよく見せるためのもの」と捉え、女性はそれを認識して男性の求める「かわいい像」に合わせて容姿を意識する構図が見える。**これは精神的な平等性を阻む要因となり得るのではないだろうか。

●女性はかわいく、柔らかくあるべき。「お姫様扱い」を求めるメンタリティ



自分自身、自立していてしっかりと芯があるような女性、
自分らしさがあるような人がかっこいいなと思う（中略）。
とは言え、**世間一般的にはやはり可愛くて、柔らかい（女の）人の方が、**
モテるというのは周りを見ていて思う。



理想の女性像は、自分で稼いだお金だけで生きていけるような生活力を
持ちながらも、家庭と両立できるような人。
実際に付き合いたいと思う男性像は、
（中略）一番に自分のことを考えてくれるような人が良いと思う。
（中略）**お姫様扱いしてほしいと思うのは、世間一般なんじゃないかと思う。**

しらべぇ編集部が、2019 年に全国の女性 807 人に対して実施した調査※9 では、全国の 20 代女性のうち 23.5%が「お姫様扱いされたいほうだ」と回答していた。女性の回答者は上品な仕草や柔らかな雰囲気など、いわゆる「女性らしさ」が一般的に求められる女性像だと認識しており、それが自身の目指す理想の同性像にも影響を与えている。一方で、特に女性Bは理想の女性像として、「誰かに好かれることを気にせず、自分らしさを保つ芯のある女性」を挙げており、ここから**社会の求める女性像と自身の理想との間の葛藤**が読み取れる。また女性Cは自立したキャリアウーマンに憧れを抱きつつも、男性には「お姫様扱い」をしてほしいと述べており、**自身の抱く女性の理想的なあり方の中にも葛藤**が見られる。

●そつなくこなす女性が素敵。女性らしい立ち振る舞いを求める



（自身の理想の女性像について）他人がいる場でのモラルがしっかりしている人。
挨拶をきちんとできる、また空気を読み、
もし嫌なこと言われたとしても、笑顔で対応する人。
（中略）男性は比較的今までの日本の時代背景として
意見を言いやすい環境にあるが、女性には意見を言いづらいような空気が
作られているため、意見を言った際世間的に「なんだこいつ」と
いうような印象になってしまうの（で、男性よりも女性挨拶をしたり
その場の空気を読むようなことが求められているの）だと思う。

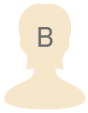
女性の回答者が、社会及び自身が理想とする女性像として「気配りができる」「男性を立てる」ことを挙げている。また理想の男性像として、「頼りがい」「男らしさ」「お姫様扱いしてくれること」などを求めていることから、女性自身が「女性は男性に守ってもらう存在」と捉えている可能性がある。一方で、男性回答者が理想とする男性像は、男性 E は社会的地位、経済力など社会的価値がある人を挙げており、男性と女性に求められる役割の違いが表れている。

歴史や文化的背景が、現在のユースが抱く精神的平等性を阻害するジェンダー観に影響を与えていることも指摘された。男性Dは自身の理想の女性像の形成要因として、「意見を主張する男性と控えめな女性」という歴史的に作られたジェンダー観を挙げている。これは仮に男性が差別的な意識を持っていなくとも、 男女間の自由な意思決定を阻害する女性へのプレッシャーとなり得る。

※9：しらべぇ編集部（2019）「女性の成長を阻む存在になることも お姫様扱いして甘やかす男性に注意を」
https://www.google.com/url?q=https://sirabee.com/2019/05/05/20162042111/&sa=D&source=docs&ust=1639220442324000&usg=AOvVaw1DxGM_CsxKw_1rSVIsC0ad

①性行為に対する印象

●男女で違う性行為に対する印象



B

性行為に関しては、愛情を感じる行為という印象。

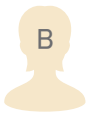


D

性行為に関しては、娯楽というか人生を楽しむ一つのツールと思っているので
ポジティブな印象を持っている。
また友人と話す際、基本的に一番盛り上がる話題ではある。

15–29 歳の男性 1,501 人、女性 1,499 人に性行為へのイメージを調査したILADY. の「性と恋愛 2021 日本の若者の性と恋愛のリアルを意識調査」[※10] によれば、男性（1,501 人）では 1 位「気持ちいい」(60.4%)、2 位「愛が深まる」(50.9%)、3 位「エロい」(49.6%)だったのに対し、女性（1,499 人）の場合 1 位「スキンシップ」(57.6%)、2 位「愛が深まる」(54.4%)、3 位「愛を確かめ合える」(50.4%)という結果が見られた。ここから男性は女性よりも性行為に対し性的快楽を、女性は男性よりも愛情行為を求める傾向が見える。実際、本調査では、回答者 5 人中 4 人が性行為に対して「ポジティブな印象を抱いている」と述べているが、**女性の回答者が行為を愛情表現としてポジティブに捉えているのに対し、男性Dは娯楽としての楽しさや友人と面白い話題として話すことがポジティブさに繋がると述べており、ここに男女間の性行為への意識の違いが見られる。**

●男女で違う性行為の頻度の捉え方　愛情の尺度？それとも義務？



B

以前はコロナ禍で一緒にいる時間が長くなりすぎて、
マンネリ化しあまり性行為をしなくなった。
その時に、これは男性と女性の違いだと思うが、私を含め女性は性行為をしないと
相手に好かれていないのかなと思うことがあり、とても不安に感じた。



D

性行為の頻度については、僕が仕事上とか忙しくなり疲れて寝たい時に、
相手は求めるというような、差は生まれている。
正直そこに面倒くささや不満を感じる

※10：I LADY.. (2021)「性と恋愛 2021 日本の若者の性と恋愛のリアルを意識調査」https://ilady.world/data/survey2019/

女性Bが、「性行為の頻度が少ないと愛情不足かと不安になる」と語る一方、男性Dはパートナーに頻度を多くしてほしいと求められた際、「面倒に感じた」と語っている。このように**男性に比べ女性が性行為の頻度と愛情を比例させて考える傾向の背景には、女性が性行為を愛情表現するための行為だと捉えていることがあると考えられる。**

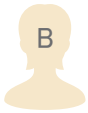
②性的同意 / 避妊への意識

●ユースは性行為には、同意と避妊が必要だと認識

プラン・ユースグループによる「日本国内ユース世代のジェンダー課題調査報告書」(2020 年)※11 において、90%以上が「性的同意を実践している、または実践しようとしている」と回答したことからは、性的同意を含むコミュニケーションが必要だと感じているユースが多いことが明らかになった。



避妊に関しては将来のことが関わってくると思うので、
事前にどちらか一方ではなく互いに持ちかけて話し合っておく必要があると感じる。



避妊や性的同意の理想に関しては、
子どもができては取り返しがつかないのでしっかりと対処すべきだと思う。



高校生時代(中略)避妊をせずに性行為をしてしまった。
するとパートナーの生理が2,3ヶ月来なくなり、そこで人生がこの後変わってしまう、
将来どうしようということを実感をして、「性行為っていうのは何なんだろう」と
後ろ向きに考えとても憂鬱になった。(中略)
この経験以降は「避妊をすごくしっかりしよう」と思うようになった。



避妊や性的同意についてパートナーとコミュニケーションをとるべきだと思う。
(中略)以前付き合っていたパートナーとの経緯があるから、
そこは考えなきゃいけないと意識している。
中絶などの問題が起きてからでは遅いので、恥ずかしがらずに話はできている。
(中略)話しにくいという感情は若干あるものの、
必要性を感じるから勇気を振り絞って聞いている。

※11：プラン・インターナショナル・ユースグループ (2020) 日本国内ユース世代のジェンダー課題調査報告書
https://www.plan-international.jp/news/yap/pdf/200721_Youth_Repor.pdf

回答者全員が性的同意を含むコミュニケーションや避妊の必要性を強く認識していた。特に女性 A や女性 B は、将来のリスクをコミュニケーションの必要性と結び付けている。また男性Dは避妊をせずに行なった性行為の結果に恐怖を感じた経験から、男性 E は中絶を 3 回経験した女性をパートナーと性行為をした経験から、「予期せぬ妊娠を防ぐためのコミュニケーションや避妊は大切にしている」と語る。ここらからは、トラウマが残る体験がこのような高い意識を持たせる可能性があることも推察される[※12]。

●性的同意 / 避妊には、日頃のコミュニケーションが大切

プラン・ユースグループによる「日本国内ユース世代のジェンダー課題調査報告書」(2020 年)において、90%以上が「性的同意を実践している。または、実践しようとしている」と回答したことからは、性的同意を含むコミュニケーションが必要だと感じているユースが多いことが明らかになった。



実際のコミュニケーションが理想的にできている理由について。
性行為に関して重きを置いていないところが大事だと思う。
性行為というと身構えるようなイメージがあるが、僕らは性行為を、
テレビを見るというようなひとつの日常の出来事として捉えており、
コミュニケーションに苦がないため上手くいくのだと思う。

性的同意や避妊といったコミュニケーションが取れていると答えた回答者には、「日頃からパートナーと納得のいくコミュニケーションが取れている」と認識している点に共通性が見られた。ここから**日常生活での理想的なコミュニケーションが、性行為の際に取るコミュニケーションの精神的ハードルを下げている可能性が読み取れる。**男性Dは、性行為を日常の出来事のひとつに過ぎないと捉えることが、円滑なコミュニケーションの要因であると語っており、ここからもコミュニケーションの精神的なハードルを下げることが理想のコミュニケーションへの鍵となることが分かる。

●女性は男性の意向に合わせて性行為に及んでいる可能性も



＜パートナーとの関係性＞性的側面についても、理想の関係が構築できているが、
パートナーの束縛の影響を多少受けていて、相手に自分が合わせることが多い。
＜性的同意・避妊法＞私自身、避妊してほしいということを性行為をする前に
伝えていて、コミュニケーションがとれている。
彼も同じ考えをもっているので、お互い同意して性行為に及んでいる。

※12：I LADY.（2021）、前掲

前述のILADY. が実施した調査で、「気が乗らないのに性行為をしたことがある」と答えた回答者は、男性がが 26.4%であるのに対し、女性は 46.5%であった。性行為へ気が乗らない場合、相手に合わせる割合は、男性よりも女性の方が高い背景には、相手に自分が合わせなければいけないという思い込みが、男性よりも女性の方が強い可能性が推測される。**女性Aは性的同意を取った上で性行為に及ぶと語りつつも、性行為は相手に合わせることが多いとも答えており、ここに矛盾が見られる。この矛盾は、性的同意の定義づけが個人のなかで確立していないことも要因のひとつである可能性がある。**

最後に、性的同意を含むコミュニケーションを口頭で行うことの抵抗感について加えたい。ILADY. による調査報告では、避妊をせずに性行為に及んだ理由として、「相手に言いづらかったから」(女性 22.7%、男性 2.2%)、「避妊したいと言ったが相手が同意してくれなかったから」(女性 16.3%、男性 4.9%)と性的同意をとることに対してハードルを感じる人が少なくないこと、また、訴えてもその必要性が理解されていないことが明らかとなっている。確かに、女性 C と男性 D は性的同意を含むコミュニケーションを行為に及ぶ直前に口頭で取ることの難しさに言及している。**性行為の前の雰囲気を壊さないことを重視し、それ故に同意が空気を読む形で行われたり、口頭でなされる場合は日常の会話においてであることが読み取れる。**

〈回答者が指摘した平等な男女関係を築くため方策〉

現行性教育の課題

●ないがしろにされる性教育



教科書通り暗記、テストのためという感じだった。
教科書に書いてあることを上から「ぱら一っ」と、という感じで、
教科書に書いていない大事なこともあったと思うが、
それにはあまり触れられていなかったと思う。（中略）
田舎になればなるほど「受験命」みたいな学校も結構あると思うが、
学力だけじゃなくて人間として大切なことっていっぱいあると思うので、
そういうところをちゃんと教育で、ただテストのための勉強じゃなくて
実践できるような知識を伝えられるようになれば良いなと思う。

東京都教育委員会が、都内 624 校の中学校校長に対し 2018 年に実施した「性教育（中学校）の実態状況調査」[※13]によると、管理職の意識調査の項目において、「教員は、専門的知識に基づいて性教育を行うことができている」に対し「あまりそう思わない」が 32%、「そう思わない」が 3%と、約 3 分の 1 を占めており、「教員は、性教育について自信をもって指導している」に対し、「あまりそう思わない」が 45%、「そう思わない」が 4%と、併せて約半数を占めていた。インタビューでは、保健の授業での性教育について、女性 C、男性 D、男性 E は、「教科書に沿った内容のみについて、単語の暗記を促す形の教育を受けた」と述べている。

ここから、**学校や教師が、より踏み込んだ内容を教えることに対してタブー意識を抱えていたり、どこまでをどのように教えれば良いのか分からなかった可能性が推察される。**また、大学受験に力を入れる学校に通っていた女性C は、「受験に必要の無い性教育の授業内容は薄い印象だった」と語る。これらから、**いわゆる大学受験科目に含まれない性教育が、学校教育において比較的重要視されていない現状や、それが学校の指針によっては強まる傾向がある**ことがうかがえる。

●不十分な人権教育・ジェンダー教育



人権教育に関しては、（通っていた学校で）あまり関心をもって
取り組んでいなかったからか、（人権教育を）扱ったかもしれないが、記憶にない。
ジェンダー平等については社会の授業で扱われた
男女雇用機会均等法などしか覚えていない。

※13：東京都教育委員会（2018）「性教育（中学校）の実施状況調査」
https://www.google.com/url?q=https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2018/files/release20180913_02/bessi.pdf&sa=D&source=docs&ust=1638627802901000&usg=AOvVaw10y5gjuWqw8fSqh9RHFAtt

B

対等な人間関係の作り方、コミュニケーションの取り方やジェンダー平等など、
人権や人間関係について、道徳などで勉強した覚えは全くない。
ジェンダー平等については、政治経済の授業でなんとなく勉強したと
思うがしっかりとは勉強していない。

対等な人間関係の構築を含む人権教育に関しては、女性 A、女性 B、女性 C は「社会科の授業でジェンダー平等などに少し触れたのみ」と答え、男性Eは、「中高の社会科の授業で多く触れ、小学校の道徳でも学んだ」と述べている。ここから、**男女の対等な関係性の問題が、主に社会経済的な課題のひとつとして主に捉えられており、その社会経済的な課題の解決策となりうる、基本的人権や対等な人間関係の教育が、不十分な現状がある**と読み取れる。

●ユースが身近に感じられない性教育

B

性教育についてはほとんど覚えてない。
(中略)コンドームのつけ方など避妊法についてのしっかりとした知識は無く、
友だちの話を聞いたり男性がつけているのみたりして覚えた。
性交渉の話は全然覚えておらず、中絶の話は(中略)具体的には覚えてない。
性教育の授業は、勉強したのが中学生の時で、
あまり身近に感じられなかったので、すごく軽く聞いていた。

D

性行為については(中略)ふざけた感じ、
遊び感覚で授業を受けた記憶がある。
(中略)実際本番とは雰囲気なども全然違うため、
正直習ったことは参考になっていない。
そのため実際には、相手の表情から
これがよいのか悪いのかを探っていくような感じ。

プラン・ユースグループが実施した「ユースから見た日本の性教育の実態調査」[※14] によると、これまで受けた性教育の印象についての項目では、「身近である」と回答したのは全体の 23.8%、「役に立つ」と回答したのは全体の 43.3% にとどまっていた。インタビューからは、回答者が性に関する事柄を自分事として捉えられなかったことが読み取れる。実際、女性 B と男性 D はともに、**「実践的な知識は、友人の話や、実際に相手の表情や行動を見て探るように学んだ」と語っており、正しい知識を身につけずに性行為を経験することの危険性が表れている。**

※14：プランインターナショナル・ユースグループ (2021)、前掲

●自信が持てない性に関する知識



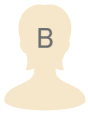
保健で学んだ避妊法や中絶に関しては、基礎知識としてもっていて、
実際の場面、他の人の話、ネットで情報収集する際に自分の知識の正しさを
実感しているので、自信を持って実際の場面で活用できていると思う。



性教育で学んだことに関しても、道徳で学んだことに関しても、
自信を持って行動できているかと聞かれると、自信はあまりない。
中高でちゃんと学べていなかった、テストで良い点数を取るために勉強しただけで、
基礎がなっていないため、自信云々の前に何が正解なのか（分からない）、
というのが本音。

不十分な性教育は、若者を自らの性知識の実践に際し自信のない状態に置く可能性もある。ピルコンが関東圏全日制高校の生徒 4,016 人に行った、「高校生の性知識・性意識・性の悩みに 関する調査」(2016)※15 によると、「自分も性関係をもてば、性感染症や妊娠といったリスクは関係あることだと思う」について「とてもそう思う」「そう思う」と答えた回答者は併せて 70%に達するのに対し、「将来の性関係において、妊娠を希望していない時は避妊ができると思う」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答したのは 44%、「自分や相手の将来と結びつけて、これからの性行動を選択しようと思う」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答したのは 54%と、性に関するリスクの認識と比べて、リスクの対処行動への自信は低いことが読み取れる。実際に、**女性 A と女性 C の回答から、知識をよく記憶していると感じている場合と、中高で十分な性教育を受けなかったと感じている場合に、実践への自信に差が出ることがわかる。**

●インタビューから見えたユースが求める性教育



性教育で改善してほしい部分について、ピルやコンドーム以外の
例えば「ミレーナ（筆者注：子宮内避妊具）」などの避妊方法や、避妊方法の副作用、
購入するのにどれぐらいお金かかるのかなどをもっと知りたかった。
ピルに関しては、今、生理痛がひどいので、飲む（筆者注：服用する）かを
検討しており、そのような部分も含めて学校で勉強したかった。

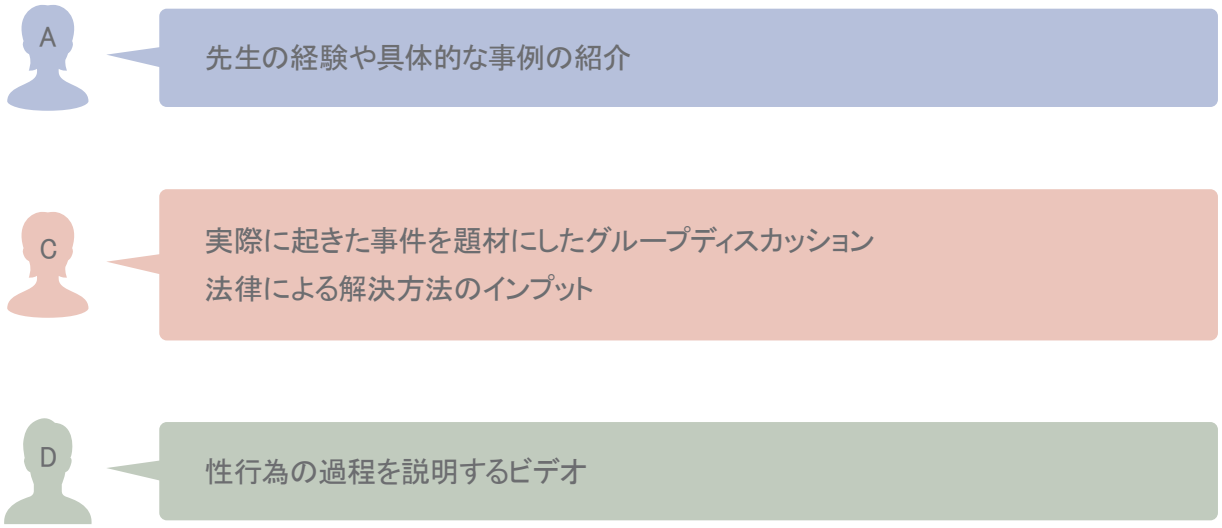


中絶やピルとか、女の子の負担に対してのリスクも中学生の頃から学べていたら
良いのではないかと思う。女の子もそうだが、是非男の子にも学んでほしい。

※15：特定非営利活動法人ピルコン（2017）「高校生の性知識・性意識・性の悩みに 関する調査」https://pilcon.org/wp-content/uploads/2015/04/6a90f1cd42dd5ae984e065c5fa6675ca-2.pdf

性教育の内容に関して、自分事として身近に捉えられず関心が持てないことの改善策として、回答者の多くが具体的な事例を交えたインプットの必要性を挙げている。以下に、回答者から得られた具体的な教育方法案をまとめる。また複数の回答者が、コンドームの付け方の実習が印象的だったと述べており、**生徒が主体的には当事者となる時まで記憶に残りやすいと考えられる。**

具体的な教育方法案



自身の受けた性教育に対し不十分さを抱く女性 B と女性 C は、女性の身体的リスクをしっかりと学ぶ必要性を強く感じていることが分かる。

3. 提言：

健全な人間関係を築くために求められているもの

本章では調査結果を踏まえ、教育行政担当者、あるいは学校機関の関係者などに向けて提言したい。

前章では、性行為時のパートナーとの関係性およびその関係性構築の土台となる平時の関係性について、インタビュー結果をもとに考察を試みた。**私たちは、性に関する知識や人間関係の築き方がしっかりと身に付きづらい現行の性教育は不十分であり、「包括的性教育」の完全導入・促進が不可欠であると考える。**包括的性教育とは、認知的・感情的・身体的・社会的側面から性に関しての理解を育む教育であり、若者自身の健康や幸福・尊厳の実現、尊重された社会的・性的関係の構築、およびその権利を守ることへの理解をエンパワーメントする知識や態度・価値観を獲得させることを目的としている。

包括的性教育の開発・実践の促進を目的として、国連が 2009 年に作成、2018 年に改訂した国際セクシュアリティ教育ガイダンスは、現在世界的に性教育のスタンダードとして機能している。このガイダンスには、包括的性教育を実践する上での以下の 10 個の要件（キーコンセプト）が明記されている。

KEY CONCEPT

「科学的に正確であること」
「徐々に進展すること」
「年齢・成長に即していること」
「カリキュラムベースであること」
「包括的であること」
「人権的アプローチに基づいていること」
「ジェンダー平等を基盤にしていること」
「文化的関係と状況に適応させること」
「変化をもたらすこと」
「健康的な選択のためのライフ・スキルを発達させること」

提言の形については、上記の要件項目のうち、今回明らかになった課題に密接に関わる、現状の日本の性教育が十分に満たしていないと考えられる項目を取り上げ、各項目において具体的な解決案を提示する形をとることとする。

KEY CONCEPT

「年齢・成長に即していること」

PROPOSAL

当事者意識を持てるように教育方法を工夫してください。

「当事者意識が持てないために中学生、高校生時代の性教育が記憶に残らない」と回答したインタビュー対象者がいたが、先行調査からも同様の傾向が読み取れる。学習者にとって将来のことだとしても、より効果的な性教育となるために、当事者意識を持てるような伝え方が求められている。表面的な知識だけではなく、必要な知識、具体的な経験に基づくエピソード、実践形式なども含んだ、当事者意識を持てる教育をしていただきたい。

KEY CONCEPT

「人権的アプローチに基づいていること」

PROPOSAL

人権教育を拡充してください。

インタビュー対象者の全員が「人権についてしっかり学んだ記憶がない」と回答していた。対等な人間関係を築くためには、性教育の土台として、すべての人間が人権を持っており、尊重されるべきだということの認識が欠かせない。幼少期から学習者の年齢・成長に応じて、基礎からしっかりと教育してほしい。また、多様性に配慮した、ジェンダーバイアスをはじめとした特定の価値観を子どもに押しつけない人権教育を、現場の実情を考慮した上で全ての児童・生徒が平等に受けられるようにしてほしい。

KEY CONCEPT

「ジェンダー平等を基盤にしていること」

PROPOSAL

ユースが対等な関係性を持って安全で幸福な形の性行動をとるために、平等なジェンダー観を構築する性教育を行なってください。

調査の考察から、日常生活において特定の性別を圧迫するジェンダー観やジェンダー規範は、実は男女双方の性別をも圧迫しているということ、またそれが性的関係をもつ場における不平等な関係を構築する土台となりうることが読み取れた。対等で自由な意思決定に基づく性的関係や、それにより実現する安全な性行動には、教育によってジェンダーの平等性を自分事として理解することが欠かせない。

KEY CONCEPT

「文化的関係と状況に適応させること」

PROPOSAL

成長環境の違いに配慮した、個別のアプローチが必要です。

地域性や学校が共学か別学か、また学校のカリキュラムにより、対等な関係性構築に異なる影響がでている可能性がある。そうした背景を基に、国あるいは各地の教育行政が各地域や学校のスタイルごとの意識調査結果からそれぞれに特有の課題を分析するなどして、個々に応じた性教育のアプローチを形成することが求められる。

KEY CONCEPT

「健康的な選択のためのライフ・スキルを向上させること」

PROPOSAL

ユースが性的同意を実行し、自分にあった避妊法を正しく実践できるように、性的行為を安全に行うための実践的なスキルを教えてください。

インタビュー対象者の多くは、性的同意や避妊法に関して、「パートナーと気軽に話すことができている」と回答した。しかし、実際に性行為の頻度や避妊をするか否かに関して、パートナーと上手く話し合えていなかった。性行為に及ぶ際に、相手に合わせることなく、自分の素直な意見をパートナーと話しあうことができる教育が求められる。国際セクシュアリティ教育ガイダンスの「キーコンセプト5.3コミュニケーション、拒絶、交渉のスキル」でも、15〜18歳の学習目標として「個人のニーズや性的な許容範囲を表明する効果的なコミュニケーションの例を分析する」、「性的同意を示すこと、示さないこと、性的同意を聞き取ることの例を示す」、「同意のあるセックスがなぜ効果的なコミュニケーションを必要とするのかを説明する」、「自分を主張することや交渉のスキルは、望まない性的プレッシャーに抵抗し、あるいはより安全なセックスのための意思を強化することを認識する」、「個人のニーズや性的な許容範囲を伝える効果的なコミュニケーションをはっきり示す」などが挙げられている※16。このように、性行為に関する合理的な意思決定ができるよう、常日頃のコミュニケーションをはじめとして、自己主張の重要性を理解して、その方法を学習者が具体的に身につけられるようにするべき。



※16：ユネスコ（2020）「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」明石書店 p120-122

参考：

改善手段は包括的性教育だけではない―友人とメディアの重要性

今回の調査から、特に関係性の構築や改善に関わる存在として、友人とメディアが明らかになった。そのため最後に、包括的性教育とは異なる角度から課題解決を促進しうる友人とメディアについて、より有効的な要素とするために教育現場ではどのような工夫ができ得るかを提言したい。

ユースにとって、友人は性に関する悩みを最も相談しやすい存在です。正しく安全に悩みを解消するため、性に関する、及び他の信頼できる相談先についての正しい知識をユース一人ひとりが持てるようにしてください。

インタビュー対象者の多くが、気軽に性についての悩みを相談できる相手先として「友人」を挙げた。しかし、その友人が誤った知識や態度を解決案として示してしまった場合、安全で対等な男女関係づくりに悪影響を与える可能性がある。友人同士で性に関する正しい情報をやり取りするためには、性に関する正しい知識と確かな相談先を、ユース一人ひとりがしっかりと知っている必要がある。

ユースが、性に関する情報を安全に収集できるために、メディアリテラシー教育を推進してください。

調査から、ユースが悩みを解決するために用いる情報源として、インターネットなどのメディアも強い影響力があることが読み取れる。正しい知識を得られる情報源のインプットや、安全な情報源かどうかの判断方法など、安全に性の悩みを解決するための具体的なメディアリテラシー教育を強化してほしい。



参考文献

ILADY.（2021）「性と恋愛 2021 日本の若者の性と恋愛のリアルを意識調査」
https://ilady.world/data/survey2019/

茨城県教育委員会（2016）「性に関する調査（高校2年生）」
https://www.google.com/url?q=https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/welcome/soshiki/soshiki/hotai/hoken/pdf/27seichyousa.pdf&sa=D&source=docs&ust=1639390746149000&usg=AOvVaw3Gx21AmT2nN8K4eblzx7AS

岡山大学大学院保健学研究科（2021）「全国の都道府県等における妊婦の方々への新型コロナウィルスに関する相談窓口への調査報告書『新型コロナウィルス感染拡大に伴う妊産婦や母親の不安と支援の実態』」

ジェクス株式会社（2020）「ジャパン・セックスサーベイ 2020」
https://www.jex-sh.jp/pdf/japan_sex_survey/sexsurvey2020.pdf

しらべぇ編集部（2019）「女性の成長を阻む存在になることも　お姫様扱いして甘やかす男性に注意を」
https://www.google.com/url?q=https://sirabee.com/2019/05/05/20162042111/&sa=D&source=docs&ust=1639220442324000&usg=AOvVaw1DxGM_CsxKw_1rSVIsC0ad

東京都教育委員会（2018）「性教育（中学校）の実施状況調査」
https://www.google.com/url?q=https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2018/files/release20180913_02/bessi.pdf&sa=D&source=docs&ust=1638627802901000&usg=AOvVaw10y5gjuWqw8fSqh9RHFAtt

特定非営利活動法人ピルコン（2017）「高校生の性知識・性意識・性の悩みに 関する調査」
https://pilcon.org/wp-content/uploads/2015/04/6a90f1cd42dd5ae984e065c5fa6675ca-2.pdf

特定非営利活動法人ピルコン（2020）「『妊娠したかも』と思った時に無料で相談できる LINE ボット『ピルコンにんしんカモ相談』利用者数 1 万人突破！ ～コロナ禍で急増する若者の妊娠相談から見える緊急避妊薬・性教育の課題～ 」
https://pilcon.org/wp-content/uploads/2020/05/c4acb4a16b86ca8c7f509dc0b79e8814.pdf

内閣府男女共同参画局（2021）「女性に対する暴力の現状と課題」
https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/pdf/kadai.pdf

ニューライフアドベンチャー（2018）「中高生 1000 人の気持ちアンケート　教えて！みんなの声」
http://nla.or.jp/pdf/1000an_kekka.pdf

プラン・インターナショナル・ユースグループ　日本国内ユース世代のジェンダー課題調査報告書（2020）
https://www.plan-international.jp/news

プランインターナショナル・ユースグループ　ユースから見た日本の性教育の実態調査報告書（2021）
https://www.plan-international.jp/youth/pdf/0630_Youth_Report_01.pdf

ユネスコ（2020）「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」明石書店

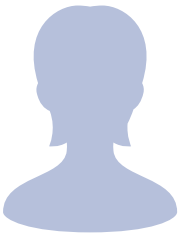
調査・分析・執筆チーム

調査・分析：大崎、久保、桑原、高島、千木良、東方、富岡、畑岡、横山、渡辺
報告書執筆担当者：大崎、高島、東方、畑岡、渡辺
全体編集者：渡辺

付録資料 5 人の語り 詳細

言い回しなどは基本的に録画データから書き起こしたものを利用しているが、口語的すぎる表現は文語的に変更した。また文法的なミスなどにより意味が通りにくいものは修正している。掲載に際して、個人情報や職場が特定される発言は掲載しなかった。

A



24 歳・女性　　佐賀県　　社会人・教員

＜パートナーとの関係性＞

パートナーとの理想の関係について。精神面では、何でも話したりできるような落ち着く関係だけど、お互いは依存し合うことなく自立していて、束縛などをしない関係が理想。経済面では、食事に行った時の支払いは奢ってもらうか、(相手に)多く出してほしい。性的側面では、ある程度自分が触れたいと思った時にスキンシップがとれたり、性行為についても頻度はあまり気にしたことがないが、お互いの気持ちがあった時にできる関係が理想。この理想の関係は自分の経験や友人の経験を参考にしている。次に実際のパートナーとの関係について。精神面では、自分自身あまり依存しない体質だったが、相手が結構依存を求めてきたので、違和感があったけど、ある程度彼に合わせていた。経済面では、理想の関係が構築できている。性的側面についても、理想の関係が構築できているが、パートナーの束縛の影響を多少受けていて、相手に自分が合わせることが多い。

＜ジェンダー観＞

一般的にモテる人物像は、男性に関して言えば、顔がかっこよく、お金があり、精神的に自立していて、女性に関して言えば、顔が可愛く、仕草が女性らしく、男性を立てられる人だと思う。この一般的にモテる男性像・女性像は友だちの話を参考にしている。実際に付き合いたいと思う異性像は、自分のことを受け入れてくれて、経済的にも精神的にも自立した男性である。そして、実際自分がなりたい理想の同性像は、仕草が女性らしく、男性を立ててあげられる人で、男性に(とくに精神的な)包容力を求めるような女性。

＜性行為への印象＞

友人やパートナーとは性行為について気軽に話せる関係。友達とは性行為がどうだったかや、男性の体について話したりする。パートナーとも日頃から話している。だけど、親とは異性の話をすることはなく、話しにくいと感じる。そして、性行為に関してはポジティブな印象をもっている。性行為は人間として当たり前の行為だと思うし、それは友人やパートナーも同じ考えをもっていると感じる。



＜性的同意・避妊法＞

避妊や性的同意については、パートナーとコミュニケーションを取るべきだと思う。避妊に関しては将来のことが関わってくると思うので、事前にどちらか一方ではなく互いに持ちかけて話し合っておく必要があると感じる。実際パートナーにも、私自身、避妊してほしいということを性行為をする前に伝えていて、コミュニケーションがとれている。彼も同じ考えをもっているので、お互い同意して性行為に及んでいる。自分の意見と相手の意見が異なるときはない。コミュニケーションが円滑なのは、性行為の前だけでなく日頃から自分のことや相手のことを話してお互いに認め合える関係を築けているからだと思う。

＜性行為に関する周囲からの影響＞

相手の束縛が嫌だという趣旨の相談を友人にした時に、「私自身が自立しすぎている」といったことを言われたことがあるが、その相談によって何かが変わったという印象はなく、そうなのかなと思っただけで終わった。また、周囲の人の影響でパートナーとの関係性で焦りや不安を感じたことはない。

＜性行為におけるパートナーとの関係性・周囲への影響＞

「もともとセフレ（筆者注：セックスフレンドの略）だった人と付き合うことになって、この先大丈夫か」といった相談を友人から受けた際に、「その人のことが好きならばいいのではないか」というアドバイスをした。そのカップルは今でも良好な関係が構築できていると感じる。また、性行為をする際に相手の性器が臭いという相談を受けた際には、性行為の前はシャワーを浴びるように、というアドバイスをした。

＜改善策・性教育＞

性教育で覚えている内容は、小学校のときに扱った妊娠の過程と高校のときに扱った避妊法や中絶に関してである。高校では保健の授業で、コンドームの使い方を実習形式で男女一緒に学んだことが印象的だった。人権教育に関しては、（通っていた学校で）あまり関心をもって取り組んでいなかったからか、（人権教育を）扱ったかもしれないが、記憶にない。ジェンダー平等については社会の授業で扱われた男女雇用機会均等法などしか覚えていない。ジェンダーに関していうと、自分自身理解があって、偏見なく一般社会を見れていると感じる。保健で学んだ避妊法や中絶に関しては、基礎知識としてもっていて、実際の場面、他の人の話、ネットで情報収集する際に自分の知識の正しさを実感しているので、自信を持って実際の場面で活用できていると思う。例えば、自分の体調管理のためにピルを飲もうと思ったことがあって、それを調べている際に自分が学校で教わった内容と違和感がなかった。

実際に性教育を受けた時には、自分ごととして捉えていなく身近に感じることができなかったのであまり関心がなかった。だから、先生や誰かの具体的な経験や事例があるともっと身近に感じられたと思う。

B

23 歳・女性　　東京都　　大学生

＜パートナーとの関係性＞

パートナーとの理想の関係について。束縛の有無や経済面での負担、スキンシップなどは全部お互いが納得いく範囲であればよく、そのような価値観が会う人と理想の関係を築けるのかなと思う。精神的面では、自分自身はパートナーが他の人と連絡したり異性の友達と一緒に 2人で遊びに行ったりなどは問題なくて、できれば、相手もそれを許してもらえるような人がいい。また自分の悩みをきちんと打ち明けられて、相談に乗ってくれる関係性がいい。経済的余裕に違いがありすぎない場合は割り勘でいい。ただ男性の方がすごく稼いでいる状況で、デートをすると、行く場所が値段が高い所になると思うが、その場合は向こうが多めに払ってくれたら嬉しい。性的側面では、スキンシップなどは外ではしたくないが、2人でいるときはくっついていたい。

これらの理想像は、今までの自分の経験や友達の話、恋愛についての記事が多く載っているメディアから影響を受けた。メディアについては、コスメやファッションについての情報の載る「メリー」[※17]というWEB メディアアプリがあり、そのカテゴリーの1つの「恋愛」などを見ていた。内容はパートナーとどういう関係性になるといいかや、どういう女性がモテるか、遠距離恋愛をしている時にどういうことをしたら、仲良くいられるか、などだった。

自分の経験については、期待するプレゼントに関して、前に付き合っていた彼氏とクリスマスにプレゼント交換することになり、自分は約 1 万 2,000 円のものを用意していたが、向こうがくれたのは 4,000 円くらいの普通の iPhone ケース。自分にかけてくれるお金が愛情にも比例するのかなと思い、その時の相手の経済状況知っていたため、「なんでこんなプレゼントなんだろう」と感じた。この経験を通して余裕のある方が少し多くデートの時にお金を出した方が良いという考えや、そのパートナーがあまり恋愛経験がなさそうだったので、付き合うまでにどのような人かよく見るようになった。友人との話の関しては、どれくらい束縛をするかや性行為の頻度なども色々普通に話す。ただ話は参考にするものの、参考にしすぎない方がいいと思い、参考にできそうな部分だけ参考にしたいと感じている。

現在のパートナーとの関係性について。パートナーと同棲している今は理想の状態だが、同棲する以前、パートナーが彼の友達の家に住んでいた際、その家の家賃を払っておらず、その間自分は自分の家の家賃や光熱費を払っているという状況を1年ほど我慢していた。さすがにありえないと思い、一回しっかりと話しあって、(彼が)「払う」と言ってくれたため、理想の状態になった。性行為の頻度に関しては、理想との差は今はあまりないが、以前はコロナ禍で一緒にいる時間が長くなりすぎて、マンネリ化しあまり性行為をしなくなった。その時に、これは男性と女性の違いだと思うが、私を含め女性は性行為をしないと相手に好かれていないのかなと思うことがあり、とても不安に

※17：2021 年5月末にアプリは終了、現在は WEB や SNS での情報発信を中心に行っている。https://mery.jp/

感じた。そこでなんで「やらないの」と話し合おうとしたけど、「疲れているから」と言われ、一日中家にいるのにそんな訳ないよなとずっとモヤモヤしていた。ずっとその状況が続いたが、それ以上話し合っても意味がないなと思っていた。今は向こうが働いていて、会うのが週末だけになり、マンネリ化がなくなって勝手に前の状態に戻ったため解消された。性的な関係に関してはあまり話し合っても意味はなかった。

＜ジェンダー観＞

一般的にモテる人物像としては、まずかっこいい人や可愛い人など顔が重要だと思う。また、男性は尊敬できるような人や頼りがいがあるような男らしさがある人がモテると思う。容姿に関しては清潔感が重要。女性は気配りができて、優しい人、よく笑う人がモテるのかなと思う。実際に付き合いたい異性像は、頼りがいがあり、一緒にいて自分にプラスになるような人がいいため、ネガティブな事 あまり言わず、自分を褒めてくれたり、ポジティブなことを言ってくれる人。容姿については、一般的にモテる像と同様に清潔感が大事だと思う。自分が理想とする同性像は、一般的にモテると思う女性像とほとんど一致している。

女性の容姿に関しては、一般的には美人みたいな感じの人、背は高すぎない方がモテると思う。（身長が）170（センチ）とかあるとちょっと（モテないと思う）。またきつい感じの顔より、柔らかい雰囲気の方が女性らしさがあってモテるのかなと思う。ただ自分自身の理想は、男性目線で良い悪いなど関係なく自分らしさが出ているような、身なりを整え自分磨きはしているが、男性にモテるモテないとか、誰かに好まれるとか気にしてない人（女性）。

一般的に求められる女性像と自身のロールモデルとしたい像が異なるのは、自分自身、自立していてしっかりと芯があるような女性、自分らしさがあるような人がかっこいいなと思うため。とは言え、世間一般的にはやはり可愛くて、柔らかい人の方が、モテるというのは周りを見ていて思う。これについては、日本では昔から女の人が男の人を家で支えるような文化があるから、人を支えられる優しさやそういう思いやりとかがあるような人がやはり今でも好まれるのかと思う。

＜性行為への印象＞

性行為に関することは、すごく仲の良い友人とだけ、他に人がいないような、友達の家に遊びに来た時や旅行に行った時に、性行為の頻度などについて話す。性行為に関しては、愛情を感じる行為という印象があるためポジティブな印象を持っている。

＜性的同意・避妊法＞

避妊や性的同意の理想に関しては、子どもができては取り返しがつかないのでしっかりと対処すべきだと思う。毎回は話さなくてもいいと思うが 、もし避妊しない人であれば、ちゃんとしようと伝えるべきだなと思う。性的同意の取り方に関しては雰囲気でいいと思う。

現在は避妊に関しては、特にコミュニケーションはとってはいない。時々、性行為をする雰囲気になり避妊具がない時は、

「いや、ないよ」と言って買いに行ってもらう。性的同意に関してもあまりコミュニケーションは取っていない。雰囲気で確認する感じだが、嫌だったら普通に嫌だと伝える。マンネリ化から性行為の頻度が下がった際は、モヤモヤはあったが、だからといって自分がどうしたいかは全然わからず、どうしようもないなで終わった。実際、性行為の際、途中でコンドームがないと気づいてもそのまますする時があるが、その時はやはりきちんとしたいと思うが、流れで自分も同意してしまうことがあり、それはよくないと思う。ただ今後そこについて話し合いたいとまでは思わない。

＜性行為に関する周囲からの影響＞

（同棲していた）過去のパートナーが家賃を払わなかった時は友達に相談し、言った方がいいと言われ、それでパートナーとの関係性は改善した。また性行為の頻度について、自分が月に一度しかしない時に、周りの友達が「週に 3 回している」などと聞いて、自分は愛されてないのかなと感じたことはある。

＜性行為におけるパートナーとの関係性・周囲への影響＞

友人からの、「全然相手が避妊をしてくれない」という相談には、「女の子側でも用意した方がいいよ」といった。ただその時だけ（避妊具を）つけてくれて、もうそれ以降はつけずまた元に戻ることもよくあるため、改善は難しい。

＜改善策・性教育＞

性教育についてはほとんど覚えてないが、避妊の方法はコンドームとピルがあることや、性病予防にはピルだけでなくコンドームも必要だということはなんとなく覚えている。コンドームのつけ方など避妊法についてのしっかりとした知識は無く、友だちの話を聞いたり男性がつけているのをみたりして覚えた。性交渉の話は全然覚えておらず、中絶の話はどれぐらいの時期だと中絶できるというのは聞いた覚えがあるが、具体的には覚えてない。性教育の授業は、勉強したのが中学生の時で、あまり身近に感じられなかったので、すごく軽く聞いていた。性教育の内容がよかったとしても、小中学生の時に聞いた内容はさすがに今覚えていないと思うため、成長し自分が性行為をするような年になり身近になってから、話が聞けたらいいと思う。高校の時はほとんど性交渉については学んでない。自分の高校に性行為の経験のある子が全然おらず、高校時でもおそらく中学時と比べると身近にも感じるが、他人事みたいな感じで聞いていただろう。そのため自分の場合は大学生くらいで学べるとよかった。

対等な人間関係の作り方、コミュニケーションの取り方やジェンダー平等など、人権や人間関係について、道徳などで勉強した覚えは全くない。ジェンダー平等については、政治経済の授業でなんとなく 勉強したと思うがしっかりとは勉強していない。

性教育で改善してほしい部分について、ピルやコンドーム以外の例えば「ミレーナ（筆者注：子宮内避妊具）」などの避妊方法や、避妊方法の副作用、購入するのにどれぐらいお金かかるのかなどをもっと知りたかった。ピルに関しては、今生理痛がひどいので、飲む（筆者注：服用する）かを検討していて、そのような部分も含めて学校で勉強したかった。性教育を学ぶ段階については、よくわからずに性犯罪の被害者となってしまう子供がいると聞いたため、性犯罪の危険性を考慮して、小学生や幼稚園生など早い段階で性行為自体は 知っておくべきだと思う。コンドームの付け方などについては、早い子は中学生くらいで性行為を経験すると思うので、それぐらいからすべきだと思う。

C

21 歳・女性　　東京都　　大学生

〈パートナーとの関係性〉

パートナーとは比較的良好な関係を築いている。普段からコミュニケーションを取っていて、仲が良い。何でも喋れる関係性。自分とパートナーとの関係性に関しては、周囲の人の影響で不安に思ったことはない。理由は、自分のパートナーは絶対に私に負担がかかるようなことはちゃんと同意を得て、責任を負えるようになってからじゃないとしないと言ってくれているから。

パートナーとの関係には、「思いやる心」が大切だと思っている。それに違和感を感じたのは、パートナーともう1人の男の子で飲み会をしたとき。私はあまり飲めないし、ピルを飲んでいるので、飲み過ぎたら体調を崩してしまう。自分でセーブをかけて飲んでいたが、もう1人の男の子が「飲んで飲んで」って煽ってきたのを、パートナーも止めてくれればいいのに、「飲みなよ」って勧めたことに違和感を覚えた。現実と理想に差があるというのは、自分が相手に期待しすぎているというのがある。その差を埋めるとなると、いつも自分が「このくらいなら…」と我慢するのではなく、思ったことがあればすぐ伝えるのが大事だと思う。

実際、このことがきっかけでパートナーと話し合いの機会をもち、良くないところを伝えて、関係がより良くなった。自分の体調も悪くなったし、あまり良いことではなかったが、こういう機会がないと真面目に話し合うことにはならなかったと思うので、結論としては良かったと思っている。

〈ジェンダー観〉

一般的にモテる男性像というのは、やっぱり優しさだったり、あとは結婚するというのが大前提だったら経済力だと思う。女性像は、男性と同じように優しさや気遣いなどの性格が大事だし、あとは女性の場合だと容姿が結構関わってくると思う。性格はお互いに大事だけど、「お金」と「顔」って出てきちゃうのは、男性が女性に求めるのは自分と一緒にいて恥ずかしくないかとか、そういう面もあるから。女性が男性にお金とかの面を求めるのは、一般的に女性の方が育休とか、子どもを産むときに休まないといけない期間が絶対に入ってくるから、その期間稼いでもらいたい。あとはお金があるに越したことはないし、生活に直結しているので、現実的に考える女性はお金の面を気にすると思う。

私がなりたいと思っている理想の女性像は、自分で稼いだお金だけで生きていけるような生活力を持ちながらも、家庭と両立できるような人。実際に付き合いたいと思う男性像は、やっぱり気遣いができたり、一番に自分のことを考えてくれるような人が良いと思う。基本的に、付き合っている人や旦那さんとかに自分を一番に優先してほしい。

お姫様扱いしてほしいと思うのは、世間一般なんじゃないかと思う。また、私は九州の出身で、「九州男児」のイメージが特に自分の周りは強かったので、それとは逆のバリバリのキャリアウーマンに憧れがある。

＜性行為への印象＞

ポジティブな印象。ネガティブ(な印象)がないことはないが、どちらかというとポジティブな印象。ネガティブというのは、自分の育った環境のせいもある。結構田舎で、「結婚するまでは…（性交渉はしない)」という昭和の考えで育ってきて、その二十数年の積み重ねがあるので。今ポジティブに思うことができているのは、やっぱりお互いに思うことができているというか、パートナーと分かち合えているからだと思う。

＜性的同意・避妊法＞

パートナーとコミュニケーションをとるべきだと思う。どのようにすべきかという点だが、直前にするというのはさすがに雰囲気を壊すと思うので、普通のとき、シラフで例えばご飯を食べているときとか寝る前とかにその話をしてもいいかなと思う。自分と相手の意見が異なるときは、冷静に考えてみて、リスクの少ない方をとったり、常識に沿うような方を選択している。

＜性行為に関する周囲からの影響＞

（初めの部分と内容が被るが）自分とパートナーとの関係性に関しては、周囲の人の影響で不安に思ったことはない。理由は、自分のパートナーは絶対に私に負担がかかるようなことはちゃんと同意を得て、責任を負えるようになってからじゃないとしないと言ってくれているから。

＜性行為におけるパートナーとの関係性・周囲への影響＞

その話題に限定してでも話している方だと思う。性行為の際、コンドームをつけるとかは、実践できている。

＜改善策・性教育＞

学校では、文科省で定められたレベルまでを教わった。教科書通り暗記、テストのためという感じだった。教科書に書いてあることを上から「ぱらーっ」と、という感じで、教科書に書いていない大事なこともあったと思うが、それにはあまり触れられていなかったと思う。

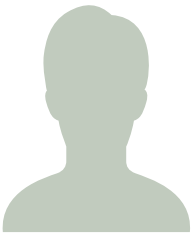
道徳に関しても、思い出せるのは小学校の「心のノート」くらい。あと中学校でもさらっとやったような気がする。ジェンダー平等は、社会科系の授業で単語として、歴史とかの一環で少し触れた記憶がある。中高一貫の学校に通っていたが、受験がメインの学校だったので、「受験に繋がらない性教育や人権教育はカット」という感じで、薄っぺらかったと思う。

性教育で学んだことに関しても、道徳で学んだことに関しても、自信を持って行動できているかと聞かれると、自信はあまりない。中高でちゃんと学べていなかった、テストで良い点数を取るために勉強しただけで、基礎がなっていないため、自信云々の前に何が正解なのか(分からない)、というのが本音。学校でどういう性教育を受けたかっ



たかについてだが、具体的な事例を用いることが必要だと思っている。例えば最近あった、女性が羽田空港のトイレで出産して公園に捨てたという事件とかを例に、「もし中絶できていたら」とか、「法律がこういう風だったら」とかを、班を作って話し合ったりして、学べたら良いのではないかなと思う。中絶やピルとか、女の子の負担に対してのリスクも中学生の頃から学べていたら良いのではないかなと思う。女の子もそうだが、是非男の子にも学んでほしい。田舎になればなるほど「受験命」みたいな学校も結構あると思うが、学力だけじゃなくて人間として大切なことっていっぱいあると思うので、そういうところをちゃんと教育で、ただテストのための勉強じゃなくて実践できるような知識を伝えられるようになれば良いなと思う。

D



24 歳・男性　　東京都　　社会人・デザイナー

＜パートナーとの関係性＞

パートナーとの理想の関係について。精神的な面では、一緒にいて気を遣わない、何でも言えて静かになりたいとき静かになってくれる、一緒にいるときの感情が一定な人。束縛はもちろんない方がお互いは過ごしやすい。お互い仕事面に関してはあまり口を出さずに、もう別れても何の支障も無いくらいの自立性をお互いが持ち、ただ単純に精神を安定させるため、落ち着くために一緒にいるような関係がいい。経済的な面では、僕もまだ若いので理想は割り勘。女性はメイクなどにお金をかける（ので割り勘は負担に感じるかもしれないが）が、それは男性側が成長してからきちんと養えばよく、彼氏彼女の関係の時は割り勘でいい。ただこれは「男性は女性を養うべきだ」というよりは、「パートナーに苦労をさせたくない」という気持ち。性的な面では、性行為の頻度はすごく大事だと思う。（性）欲がお互い同じくらいがよく、例えば週1回の性行為を相手が望んでいる場合、こっちも週1回くらいを望んでいた方が、やはり無駄なストレスなく落ち着けると思う。ハグなど軽いスキンシップに関しては、毎日苦でなければお互い何回でもしていいと思う。

パートナーとの関係について。精神的な面では、今のパートナーは落ち着く関係ではいられるが、束縛の面で少し理想との違いを感じている。僕はもうすこし自由に動きたいけれど、そこを制限されているような状態。具体的には、少し過剰だが、パートナーが基本的には他の女性と連絡を仕事でも取ってほしくないというようなタイプで、けれど仕事上仕方ないので黙って連絡は取っている。もちろんパートナーはプライベートでもあまり連絡を取ってほしくなくて、その制限はされている。経済的な面では、割り勘など基本的にはフェアな関係。性的な面では、スキンシップに関しては何もストレスは感じていないが、性行為の頻度については、僕が仕事とかが忙しくなり疲れて寝たい時に、相手は求めるというような、差は生まれている。正直そこに面倒くささや不満を感じる。

理想と現実に差がある理由について。あくまで理想は、パートナーのためを思った意見であって、実際には人生は仕事や友人関係など様々な要素が混ざってできているため、その人のことだけを思えばできることも、違う要素が入ってくると理想との差が生まれてくるのだと思う。

理想と現実の差を埋める方法について。僕の忙しさやコロナによりパートナーが少し暇になっており、お互いを考える時間に差ができてしまっているので、パートナーに忙しくなってもらうというのは変な話だが、何か趣味などに没頭してもらい、考える時間の差を埋めれば、お互い同じ感情になると思う。パートナー側に同じような立場になってもらわないとおそらく理解は難しいと思っているため、コミュニケーションのみでは解決は難しいと思う。

＜ジェンダー観＞

一般的な理想像について。男女どちらも共通して言えるのが、気を遣える人。どんな場所でどんな立場であっても、色んな人に気を遣っている人が一般的にモテる人だと思う。男性に関しては、容姿よりも中身の方が大事だと思う。だから気を遣えるというのは男性の方が当てはまると思う。女性に関しては、容姿が重要になってくると思う。ガリガリでも太ってもいなくて、目鼻立ちがはっきりしている人。女性の方が外面に重きを置かれやすいと感じるのは、女性は美しい方なのに、男性はそうでもないというカップルをよく見かけるため。

自身の考える理想像について。女性に関しては、他人がいる場でのモラルがしっかりしている人。挨拶をきちんとできる、また空気を読み、もし嫌なこと言われたとしても、笑顔で対応する人。相手側の人間的モラルが崩壊している場合は我慢する必要はないが、個人的な感情としての嫌だという気持ちを表に出してほしくはない。また二人でいる時には、モラルを気にせず、子どものように楽しく過ごせるような人であるのがいい。他人がいる場では、男性は比較的今までの日本の時代背景として意見を言いやすい環境にあるが、女性には意見を言いづらいような空気が作られているため、意見を言った際世間的に「なんだこいつ」というような印象になってしまうの（で、男性よりも女性挨拶をしたりその場の空気を読むようなことが求められているの）だと思う。自身の実生活の中でも黙っている女性が多い気はしており、「もう少しその女性の意見を聞きたいけれど、気を遣って言えてないんだろうな」という場面はよく見る。ただ気を遣うのはストレスになり、実際感情をコントロールするのは難しいことだと思うので、女性の気持ちを考えた際、やはり自分の意見を言いたくなってしまうなど、我慢できない部分は実際には生じてしまい、そのため実際は理想との差が生じると思う。また女性への外見面の理想は、デザイン系の仕事をやっているため、洋服をスタイリッシュに着こなせるスタイルの人。自身に関しては、もう少しかっこよく、また身長も 180cm ほどあった方が良かったという外見の要望が強い。男性の内面に関しては、場所選ばずに優しくできたり、きちんと注意しなくてはいけないところを注意できたり、そのような判断力の面。

＜性行為への印象＞

性行為や、特に性的同意や避妊について、周りの友人、パートナーとは気軽に話せている。友人とは、基本的には会った際に体験談として皆が性行為について交互に話している中で、それについて話す壁は無くなる。具体的には飲み会や久しぶりに会いご飯を食べる際に、世間話のようにひとつの話題として話す。避妊については、友人と話す中で、避妊をしていない話もときには聞くわけで、その時に「なんでしないの」、「やばいじゃん」のような感じで、他人事のような感じで話す。

性行為に関しては、娯楽というか人生を楽しむひとつのツールと思っているのでポジティブな印象を持っている。また友人と話す際、基本的に一番盛り上がる話題ではあるので、友人との会話からも面白いものかなと思う。

＜性的同意・避妊法＞

パートナーとの避妊や性的同意についてのコミュニケーションは、もちろん取るべきだと思う。母がシングルマザーで、その苦労や大変さを見ていたので、「自分の子どもにはそのような苦労を味わってほしくない」という実体験に基づき、

容易に子どもを作り、その子どもが良い人生を送れなくなるのは、両親の自分勝手な行動だと思う。

実際にどのようにコミュニケーションを取っているかについて。まず前提として、性的同意については、正直雰囲気があるので、相手の表情などをきちんと伺った上で、少しでも嫌そうな顔をしたら（性行為を）しないようにしている。例えば「セックスをしましょう」なんていう会話は明らかに不自然なので、直接的な「します」「しません」という、言葉での同意というのはかなり難しいものだと思う。なので服を脱ぐことやスキンシップを取ることなど、性行為になる前の行動で同意を確認している。避妊に関しては、完全に気心が知れるまでは100%している。今のパートナーとの（性的同意の）取り方については、もちろん最初は先に述べた感じだが、お互い気心が知れた後は性的同意は特になく、雰囲気やその日の気分で同意をしているものだと察するような形。避妊に関しても登場人物を自分たちに置き換えて話すなど、日常会話で話すため、問題は出てないと思う。ドラマに関して具体的には、例えばもう結婚している夫婦の一方が不倫をして子どもができたとき、「俺らだったらどうするか」など、「たらればな話」をして、「これやばいね」「こうなったら大変だね」とドラマを見て実感する。

実際のコミュニケーションが理想的にできている理由について。性行為に関して重きを置いていないところが大事だと思う。性行為というと身構えるようなイメージがあるが、僕らは性行為を、テレビを見るというようなひとつの日常の出来事として捉えており、コミュニケーションに苦がないため上手くいくのだと思う。

＜性行為に関する周囲からの影響＞

先生や親から影響を受けた記憶はないが、友人の影響でパートナーとの関係性が改善した経験はある。高校生時代は僕も若かったので避妊を軽く考えており、また授業で妊娠するのは月に1回のみだと習ったことから危険日を知るアプリを用いて危険日ではない日を選んで、避妊をせずに性行為をしてしまった。するとパートナーの生理が2〜3ヶ月来なくなり、そこで「人生がこの後変わってしまう、将来どうしよう」ということを実感をして、「性行為っていうのは何なんだろう」と後ろ向きに考えとても憂鬱になった。そこで女性の友人に話したら、「生理不順は高校生の時は良く起きるものだよ」という話をされ、「（妊娠とは）違う可能性もあるのか」と不安が取り除かれた。この経験以降は「避妊をすごくしっかりしよう」と思うようになった。実際には本当にただの生理不順で妊娠ではなかったので、気持ちが楽になった。逆に友人との会話でネガティブな影響を受けたことはない。話を聞いても他人事にしか聞こえず、面白い話題として聞くため、それが自分だったらどうしようというのにはなかなかならない。

＜性行為におけるパートナーとの関係性・周囲への影響＞

友人から相談を受け、「僕だったらこうする」という話をしたことはある。パートナーと5年程付き合っている男性の友人に、「性行為を半年に1回するかしないかみたいになってしまっていて、一緒に住んでいるためそのような雰囲気にもなりづらいため、どうしよう」という相談を受けた。そこで道具やホテルを使うというアドバイスをした。自身が交際していてマンネリ化した際、普段と違う要素を取り入れるとまた楽しめたため、それを参考にした。

＜改善策・性教育＞

まず中学生の時、性交渉に関しては男性器を女性器に入れて射精をするということ、妊娠の過程に関しては精子が卵子とくっついたら妊娠しておなかで育つということを、まるで暗記科目のような形で教わった。避妊に関しては、「避妊時はコンドームをつけよう」「中絶はよくない」という内容をわかりやすく簡潔に教わった。コンドームのつけ方については、模型を使って教わった記憶はあるが、コンドームを絶対につけろと教えられた印象はあまりなく、「避妊をするときはコンドームを（できるだけ）つけよう」というようなイメージ。そして高校性の時に実際にはどのような感じなのかを具体的に教わった覚えがある。特に覚えているのは、実際に妊娠するのは 1ヵ月のうち1日のみだが精子は中で 3 ～ 4 日生きるというような、妊娠する確率の話。中絶に関しては、中絶はよくないというイメージをすり込まれた覚えがある。中絶すると妊娠もしづらくなるため絶対に避妊をするべきと教わった。おそらく公立共通の教科書を用いて学習した。また性行為については男女で分かれていた。男性だけなので、「うわーちんこだー」というようなふざけた感じ、遊び感覚で授業を受けた記憶がある。性行為に関しては、実際本番とは雰囲気なども全然違うため、正直習ったことは参考になっていない。そのため実際には、相手の表情からこれがよいのか悪いのかを探っていくような感じ。

パートナー同士の人間関係やそれぞれの持つ人権などについては、学んだ記憶はあるが、深く印象に残っているものはない。「人には優しくしなさい」と両親に言われていたため、それの延長を言われているような気でしか学校の授業を聞いてなかった。そのため人に迷惑をかけるべきでない、ということは頭の中に残っているがそれが学校の授業で学んだかどうかまでは言い切れない。また退屈な授業という印象が強く、ただ先生が話すのを聞いているような感覚だった。

性教育の改善すべきと考える点について。まず緊張感を持ちちゃんと聞くようになるために、男女は一緒でいいと思う。また性行為に関しては手順を箇条書きのように習った感覚だったため、教育としてどうなのかは分からないが、実際にはどうなのかということを、実際に近いような AV（筆者注：アダルトビデオの略）みたいなものを流して教えるのもありだと思う。人間関係の教育については、正直学校教育で人間関係を教えている時点でだめだと思う。人には優しくするなどの心が形成されるのは幼少期であるため、親になった際に子どもが小さいうちにしっかりと人間関係を築かせられるような教育のほうが効果的かと思う。

E

22 歳・男性　　東京都　　大学生

＜パートナーとの関係性＞

パートナーとの理想の関係について。精神的面では、落ち着く関係がいい。非日常というよりかは日常の中でどれだけ補えるかが大事。できれば毎日会えるような関係で、ご飯や睡眠をともにしたい。親が日常的に一緒にいるような人だから親の影響はあると思う。また、インスタグラムで見る「高級ホテル泊まりました」のようなリア充はあまり好きではないので、そこに対する反骨心のようなものが、毎日会えているし日常で充実させてやるという思いに影響している。（パートナーを）束縛しすぎたら、束縛されること自体がしんどいからしないように心がけている。相手が引け目が感じていなかったら自分は安心している。

経済的側面について。記念日とかでも 2～3,000 円のプレゼントで十分。週に何回も会いたいので日常で出る支出に重きを置いている。だいたい割り勘でおごる時は1割くらい。それは、どちらかが出しすぎてしまうと関係が継続できないという所でパートナーと話しあって決めている。性的側面について。スキンシップは大事だと思う。性行為の頻度は週に 3～4 回で今の状態に満足している。

パートナーとの関係性について。最近、インターネットで tiktok とか Youtube で「幼馴染カップル」というコンテンツを投稿している方がいて、自分たちの日常を大事にしているところが似ているからそこから影響されている。でも、テレビや AV、学校の先生から参考にしようと思ったことはない。高校が男子校だったので参考になるような話はなかったり、「AV も作り物だ」というふうに男子校であった分、しっかりと男の先生が言葉で説明していくれたので、メディアを参考にしようと思ったことはない。実際のパートナーとの関係では、週に5～7回は会えるように心がけている。理想との違和感を感じる時は、お互いのスケジュールが忙しかったり会うタイミングがとれないとき。たくさん会っている分、マンネリ化や新鮮味に欠けるといった所で違和感を感じる。たくさん会えば、マンネリ化を助長してしまうため、その時は、彼女や自分から 1 週間くらい会わないでおこうということは、これまで3回ほど行ったことがある。現状との差はなく、週 5～6 回会えているからこれ以上求めることはないっていうのと、自分の理想が今の会えている状態に寄ってきた。過去の中学、高校生の時のパートナーとは、お互いの部活が忙しく会えないため、理想的ではなかった。次のパートナーは、20 歳で（これまでに）子どもを 3 人の堕胎経験者だったため何をしても（そのことが）気になって性行為もまともにできなかった過去がある。

＜ジェンダー観＞

モテる男性像は、社会的地位や、経済力がある社会的に価値がある人だと思う。モテる女性像は、経済力や社会的な部分よりも見た目や性格（心から優しい、器が大きい）というような個人の方に向いているのかなと思う。

実際に付き合いたいと思う異性像は、世間一般で求められている像に近い。性格や見た目を重視してできれば見た目がかわいい人（世間一般ウケする顔　タレント・アイドル）がいい。その考え方は、今のパートナーはある程度かわいくて、かわいい彼女がいるということは、周囲から見た時に「あいついいな」と思われたり、マウントを取れたりするため。そこに影響されている。今理想のパートナーとお付き合いできているため、求める理想像との差を感じることはない。男子校の言説は、女の子は憧れの存在。彼女がいるということはマウントをとれる位置づけ。

＜性行為への印象＞

パートナーとは気軽に話せている。コンドームの装着の有無やピルを飲むか飲まないかという相談もこれまで何回かしてきた。

友人や周囲の大人にはあまり気軽には話せない。自分自身ナイーブというか、他人の性行為の体験談を聞くのが好きじゃない。友達がそういう話をしてきた時に想像してしまい気持ち悪いと感じるため、そういった話は避けている。一方で、AV やポルノの話は好きなのでできるけど、友達の性行為事情は聞きたくない。

学校の先生には話せていた。親には話せない。もし、不安なことや知らないことがあった時は、政府や病院の信頼できるサイトを検索して情報を得ている。

性行為に関しては、どちらかというとネガティブな印象が大きい。以前お付き合いしていた彼女が当時 20 歳で、子どもを 3 人中絶していた人だった。その人も何も学ばない、繰り返し続けている人だったので、そういう人を見るとしっかり色々考えないで性行為をしちゃうっていうのはいけないことだという理由がある。一方で、今付き合っている人と性行為はしたいと思っているし大事だと思っている所はポジティブな印象。

＜性的同意・避妊法＞

避妊や性的同意についてパートナーとコミュニケーションをとるべきだと思う。具体的には、避妊方法とかどこまで行為をするのかしっかり具体的に、「舐める所まで」とか、「入れるところまでしよう」というふうに話し合うべきだと思う。それはお互い、ある程度空気（雰囲気）を壊さない程度に。実際も、（パートナーと）性的同意をとれている。ゴムをつけるのかつけないのか、ピルはのむのかしっかり単語を出しながら相談している。もし、自分の意見と相手の意見が違う時は、自分が折れている。相手の意見を受け入れている。ピルを飲むという行動をおこすのは彼女。性行為の失敗に対するリスクが大きいのは女性なので、男性より女性の意思をより尊重させてあげるべきだと思う。日常で意見が違うという時も、徹底的に互いが妥協せず折り合いをつけれるまで議論して解決するようにしている。パートナーとのコミュニケーションについても、理想との差は感じない。以前付き合っていたパートナーの経緯があるから、そこは考えなきゃいけないと意識している。中絶などの問題が起きてからでは遅いので、恥ずかしがらずに話はできている。中絶の知識とかは自分で調べたことはある。普段から性に関する話をパートナーとはできている。話しにくいという感情は若干あるものの、必要性を感じるから勇気を振り絞って聞いている。

〈性行為に関する周囲からの影響〉

周囲の人の影響で、パートナーとの関係性が改善したことはない。性行為に関することは話さない。友人との恋バナの中ではして、改善したことがある。男子校出身で、女性と話したことがなかった時代があって喋り方がわからなかったから、友人から教えてもらったのは参考になった。逆に、焦りや不安を感じたことも性行為に関してはない。とある知人がいて他人の恋愛に割り込んで、そこが性格悪いなと思って僕は聞かない。

〈性行為におけるパートナーとの関係性・周囲への影響〉

周囲の人からパートナーの関係性についての相談を受けたこともない。パートナーとの関係性について共有はしない。その理由は、男子校出身で、彼女がいるということは憧れで、彼女がいるということが（学校内で）他人にマウントをとれることだった。自分は高校時代彼女がいたけど、他の人に言うことは付き合えていない人に対して申し訳ないという気持ちがあった。今でもパートナーがいるということを自慢したりのろけたりすることが申し訳ないという気持ちがあるから。「彼女」という存在を手に入れたいという感情は、男子校というコミュニティにいたら大きくなるのは確か。

〈改善策・性教育〉

「性交渉」「妊娠の過程」「避妊方法」「中絶」などについて学校で学んだ記憶は、「中絶」以外はある。性交渉に関してはどういう表現をされたか覚えていない。妊娠の過程は保健の先生が教科書に沿って話された。避妊方法は、試験管にコンドームをかける練習をした。

「人権」「人間関係」については、人権は中学の社会科の中でいっぱいやってきた。高校では公民、政治経済、現代社会で勉強した。人間関係については小学校の道徳では学んだと思う。コミュニケーション能力という部分では大学に入ってディスカッションなどで身につけた。ジェンダーは、高校の時に試験に出る内容のみ学んだ気がする。学んでいないことの中で、特に性行為において対等な人間関係をつくるために知りたかったことはない。今の知識で十分だというよりは、何が足りないのかわからない。多分足りているとわかっていたらすると思う。人間関係の話でいうと、今大学生になって、お酒での失敗とか新しいものが加わったときにコミュニティの変化に対応できる何かを知っておけばよかったと思う。男子校から共学への変化があったことは苦労した。

男子校に通っていたため異性との関係構築に対して、思春期を女の子と話すことなく過ごしてきた。そのため日常で女の子と話すことは難しく、今でもコミュニケーションを取るのが難しいと感じるといった影響がある。一時期、女の人がすごく怖かった。男の人は包み隠さずダイレクトに伝えてくれるけど、女の人は言っていることと本心が違うことが多いと思うから。蕎麦屋にいった時、「蕎麦食べるの早いね」という言葉が女の人から出たら「もっと遅く食べろよ」と言いたいのかと勘ぐりすぎるところがある。



本報告書に関するお問い合わせ

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン　アドボカシーグループ

HP：www.plan-international.jp

Tel：03-5481-3533

Email：advocacy@plan-international.jp